

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病虫害発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 連絡先 | 福井県農業試験場 病虫害防除室 |
| Tel | 0776-54-9315 |
| FAX | 0776-54-6403 |
| E-mail | byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp |

平成23年農作物病虫害発生予察予報第2号

4月の気象概況

平年に比べて晴れの日が多い見込みです。

3ヶ月予報では、4月の気温は平年並み、降水量は少ないか平年並みと予想されています。

[水稻関係]

病虫害名 ばか苗病

1. 予報内容

発生時期：発病最盛期は4月下旬

被害程度：少発

発生量：育苗期の発生量は平年より少なく、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に種子消毒は浸種前に行い、浸種開始から3日間は換水を控える。また、薬剤の残液は、河川や池などに流さず、適正に処理する。

病虫害名 苗いもち

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりである。

病虫害名 各種苗立枯病（糸状菌）

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりであるのとおりであるが、特に育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

病害虫名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年より多い。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

[大麦関係]

病害虫名 赤かび病

1. 予報内容

発生時期：初発は5月中旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年よりやや多く、前年より多い

2. 防除対策および防除上の注意点

- (1) 1回目の防除適期は開花始め～開花盛期である。そのため、開花始め～開花盛期に相当する出穂5日後頃に1回目の薬剤防除を行う。また、1回目の防除の7～10日後に2回目の薬剤防除を行う。
- (2) 出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと多発するので、防除適期を逃さないようにする。そのために、圃場をこまめに巡回し大麦の出穂状況を日頃から確認しておく。

病害虫名 雲形病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より少ない

2. 防除対策および防除上の注意点

- (1) 本病は進展速度が遅いので、局部発生であれば防除の必要はない。
- (2) 発生の多い圃場では止葉展開期～出穂期に薬剤を散布する。
- (3) 種子伝染するので発病圃場からは採種しない。

病害虫名 株腐病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より少ない

2. 防除対策及び防除上の注意点

- (1) 麦の生育量が多い圃場では、発生が多くなるので注意する。
- (2) 発生を認めたら、発生初期に薬剤を散布する。

[果樹関係]

| 果樹名 | 病害虫名 | 予 報 内 容 | | | 防 除 対 策 |
|-----|--------------------|----------------------|-------------------|----------------------------------|--|
| | | 発生時期 | 被害程度 | 発 生 量 | |
| ナ シ | 黒星病 | 初発： 5月上旬 | (5月) 中発 | (5月) 平年：多 前年：並み | 1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2)同一薬剤の連用は避ける。 3)落葉がある場合は圃場外で処理する。 4)窒素肥料の多施用を避ける。 |
| | 黒斑病 | 初発： 5月上旬 | (5月) 少発 | (5月) 平年：少 前年：多 | 1)脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2)同一薬剤の連用は避ける。 |
| | 赤星病 | 初発： 4月下旬 | (4月) 少発 | (4月) 平年：少 前年：並み | 1)中間寄主のビャクシ類はできるだけ広範囲に伐採する。 2)防除は開花直前から5月上旬にかけて行う。 |
| ウ メ | 灰色かび病 | 果実初発： 4月中旬 | 少発 局中発 | 平年： やや多 前年： やや多 | 1)低温により開花の終わりが長引いたの で、発生増加に注意する。 2)今後、4月～5月に雨天が続く場合は、 適宜追加の防除を行う。 |
| | 黒星病 | 果実初発： 5月中旬 | (5月) 少発 局中発 | (5月) 平年： やや多 前年： やや少 | 1)‘紅サシ’では防除体系に基づき、展 葉初期から予防散布を行う。 2)多発園では4月中は防除間隔を10日以 内にする。 |
| | かいよう病 | 果実初発： 4月下旬 | 少発 局多発 | 平年： やや多 前年： やや少 | 1)生育期(4月)に抗生物質剤により予防 防除する。 2)降雹や強風雨の被害後は、2日以内に抗 生物質剤で防除する。 3)薬剤防除とともに防風対策を基幹とし た耕種的防除対策も実施する。 |
| | アブラムシ類 | 加害初期： 4月中旬 | 少発 局中発 | 平年：並み 前年：並み | ・展葉初期～生育期に防除する。 |
| | ウメシロカイガラムシ(第1世代幼虫) | 幼虫発生 初期： 4月6半旬 | 少発 局中発 | 平年：並み 前年：並み | 1)4月20日頃から越冬雌成虫の産卵およ び幼虫ふ化時期を観察し、適期に防除す る。 2)越冬成虫のカイガラ着生が多い樹では ふ化初期とその7日後の2回防除する。 |